

東京神学大学 事業報告書 (2015 年度)

I 法人の概要

1. 設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。入学定員は学部 10 名（別途編入学定員 25 名）、大学院博士課程前期課程は各専攻 15 名、博士課程後期課程は各専攻 2 名です。2015 年度の学生数は学部 51 名、大学院 52 名、計 103 名です。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「キリスト教の信仰に基づいた有為な指導者を教育し、教会・キリスト教学校・病院・諸施設等に送り、人類的な新たな地球共同体——それはまさにイエス・キリストが示した神を愛し、己のごとく隣人を愛する人格的存在がお互いに自由と謙遜を持って築き上げる共同体である——の担い手を涵養育成すること、またそのために専門的な神学の理念と応用を修得させることである」（本学ホームページの「東京神学大学の理念・目的〈建学の精神〉より）。

2. 東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

- 1856（安政 6）年 プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を始める。
- 1872（明治 5）年 横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立される。
- 1873（明治 6）年 宣教師の S・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
- 1877（明治 10）年 「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
- 1904（明治 37）年 植村正久牧師により「東京神学社」設立。
- 1930（昭和 5）年 本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
- 1941（昭和 16）年 プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
- 1943（昭和 18）年 教派ごとに分かれていた 15 の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の 3 校に統合される。
- 1944（昭和 19）年 「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
- 1945（昭和 20）年 「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
- 1949（昭和 24）年 新制度による大学として「東京神学大学」となる。
- 1951（昭和 26）年 私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。
- 1966（昭和 41）年 三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。
- 1968（昭和 43）年 本館東部部分を増築。
- 1986（昭和 61）年 本館から独立させて図書館棟を建設。
- 2011（平成 23）年 韓国イエス教長老教会神学大学と教授会協定を結ぶ。

3. 役員・教職員の概要（2016年3月31日現在）

(1) 理事（18名）

理事長	伊藤 瑞男	理事	小林 眞
学長理事	芳賀 力	〃	佐々木美知夫
財務理事	長山 信夫	〃	嶋田 順好
常務理事	深谷 松男	〃	楠本 史郎
〃	岩澤 嵩	〃	W.ジャンセン
〃	藤掛 順一	〃	數井 紀彦
〃	山本 和	〃	東野 尚志
〃	棟居 洋	〃	松井 睦
理事	木下 宣世	〃	黒沼 健

(2) 監事（2名）

監事	小山田小八郎
〃	齋藤 孝

(3) 評議員（37名）

評議員	岡村 恒	評議員	藤掛 順一
〃	山畑 謙	〃	山縣 史子
〃	服部 修	〃	黒沼 健
〃	武田 眞治	〃	大住 雄一
〃	小林 眞	〃	棚村 重行
〃	杉森 耀子	〃	芳賀 力
〃	半田 浩介	〃	井ノ川 勝
〃	望月 修	〃	佐々木美知夫
〃	岩澤 嵩	〃	小堀 康彦
〃	山本 和	〃	古屋 治雄
〃	宍戸 基男	〃	黒米 理恵
〃	市川 一宏	〃	渡邊 義彦
〃	松井 睦	〃	深谷 松男
〃	W.ジャンセン	〃	D.リーディー
〃	木下 宣世	〃	嶋田 順好
〃	東野 尚志	〃	棟居 洋
〃	數井 紀彦	〃	片桐 牧雄
〃	長山 信夫	〃	戸塚 智之
〃	楠本 史郎		

(4) 教育職員（14名）

学長	芳賀 力	教授	中野 実
教授	大住 雄一	〃	W.ジャンセン
〃	棚村 重行	准教授	焼山 満里子
〃	関川 泰寛	〃	小泉 健
〃	朴 憲郁	常勤講師	須田 拓
〃	神代 真砂実	〃	長山 道光
〃	小友 聡	助教	田中 光

(5) 事務職員 (15名)

事務長	片桐 牧雄		
総務課	戸塚 智之	中村 守枝	飯塚 一夫
経理課	深沢 絵美子	光永 豊	
財務課	熊木 佳枝	松本 秀則	
教務課・学生課	小林 由希子	萩原 なおみ	山田 雅子
図書館	木下 真由美	岸本 苑子	保坂 久実
印刷室	岩崎 博芳		

II 事業の概要

本学では、2012(平成 24)年度を本学の教育・事業進展と新たな「大学改革の年」と位置づけ、そのための諸課題の自覚と改革に取り組むことを各年度目標としてきた。その結果、大学基準協会から 2013(平成 25)年度から七年間の「大学認証評価」を受け、文部科学省の「法人運営調査」も終了した。

そうした近年の大学改革の試みの延長戦上にある 2015(平成 27)年度全体の本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を、ここで報告することとしたい。

1. 教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学では、かつて博士課程後期課程修了者（つまり神学博士号取得者）は、論文博士として論文審査を経て学位を取得する者が多数であった。しかし課程博士の博士号取得者を増やす必要を自覚し、以下の諸改革を積み重ねてきた。①2010(平成 22)年度より、年に一回、6 月頃に博士課程後期課程在学者による研究発表会を開催し、各専攻分野から適格者 2 名を選び、教授、在学生も参加する研究発表会を開き、そこでの質疑応答をもとに発表者には本学の二種類の学術論文雑誌へ寄稿を認めている。②また外国語学力認定試験の受験時期や受験回数についても、柔軟な対応が可能となる規則改正をも併せて行ってきた。

特に重大な改革としては、③2012 年度より規則化され、以後運用化された長期履修制度の導入がある。つまり、本学の修士課程修了後、牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながら、同時に週一日本学の博士課程後期課程へ在学しつつ、論文提出資格を取得させる制度改革である。これにより、以前よりもスケジュール的にも精神的にも余裕をもって後期課程での学びを開始ないし続けることができる学生たちの数が増加しつつある。

2. 教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成 (FD)

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で、授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示した。2016(平成 28)年 3 月の特別教授会では、1 年間の FD 活動の反省を行った。

b. 大学院博士課程後期課程在学者の研究発表会

2015 年 6 月 23 日の一般講演時間に、第 6 回大学院博士課程後期課程研究発表会を開催し、在学中の組織神学専攻の男性の二氏が、それぞれ研究発表を行った。出席者は 40 名ほどで、二人の成果は後に本学の神学雑誌に掲載される予定である。伝道心ある神学研究的牧師の研究発表の機会でもあり、全学行事としても定着しつつある。

c. 全学生のための神学フォーラムの開催

本学教授たちの発題による二回にわたる「神学フォーラム」が、今年度の後期に二回にわたり、全学生を対象にして開催された。テーマは「聖書と伝統」であった。第一回は、2015 年 10 月 6 日の一般講演時間に、歴史神学と新約神学担当の二教師が、第二回は、同年 10 月 13 日に、歴史神学および実践神学担当の二教師がそれぞれ発題を担当した。いずれも、教授陣と学生たちとの神学的のみならず実践的な議論と交流の機会となった。

d. 2014 年度に助教 1 名 (旧約聖書学専攻) を新規採用したため、教育職員の定数 14 名を維持することができた。

3. 学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2015（平成 27）年度には、神学部・神学科 1 年次には 3 名、同部 3 年次には 10 名、合計 13 名の神学部への新入学生を加え、スタートを切った。2014 年度の新入学生が 24 名であったので、それよりも 11 名の減少であった。しかし毎年本学は気を緩めることなく、学生募集の努力を求められている。

b. 高校生会、青年の集い、オープン・キャンパス行事

①本年度も、11 月に本学の学生会が第 4 回「高校生会」がもたれ、中高生 7 名を含め 24 名の会合が持たれた。将来の志願者獲得のためにも、学生会主催のこの会が継続できるように本学挙げて支援する所存である。

②本学主催の「第 17 回青年の集い」は、2015 年 9 月 26 日に本学で開催され、69 教会から 141 名が参加した。昨年度より若干減少したが、内容は充実度の高いものであった。

③「オープンキャンパス」も、2015 年 12 月 5 日に実施され、学外からは 23 名、受験相談は 12 名が参加した。昨年度同時期の行事に比べると、学外参加や受験相談者の数が減少しているが、こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。

4. 学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2011（平成 23）年度以来視覚障がいをもつ学生 1 名を受け入れ、落ち着いた学内での生活を続けている。学年が進むにしたがい、専門履修科目や聖書語学の履修の必要が加わるために、①一層時間をかけた教科書の朗読録音準備期間が必要となり、②また聖書語学の学びには担当講師の個別指導が必要となってきた。とくに②については、2013 年度同様に通年で聖書学の教師が土曜日に新約ギリシャ語の特別コースを設け学生に対して授業を行った。

b. 学内モラルの向上プログラム

2015（平成 27）年 4 月 21 日の本学の一般講演時間帯に開催された神学校全学集会では、芳賀力学長が紛争史以来の本学と教団の関係史を語り最近の教団と本学の伝道協力の再確認の意義を語った。また大住教授が最近導入された「研究倫理規程」を解説し、有意義な時をもった。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

本年度の夏期伝道実習は、2015 年 7 月 19 日～8 月 16 日まで、全国各地の諸教会で牧師の指導のもとに行われた。実習参加者は、学部 4 年生 23 名、大学院修士課程 1 年生 13 名、大学院修士課程 2 年生 2 名合計 38 人であった。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、実習委員会の教授たちが参加学生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

また昨年度に引き続き 9 月 25 日には、後期始業式の後、神学生が週ごとに出席し訓練を受けている諸教会の牧師 25 名と教授会のメンバーとの懇談会も持たれた。教会と神学校が協力して神学生の成長に寄与するための会合である。

d. 留学生との懇談会

小規模大学のユニークな試みとして、例年秋に教授会全員と留学生全員との懇談会を持っている。目的は、留学生の一人一人の実情を知り、あるいは共通課題を理解し合うためである。本年度は、2015 年 12 月 8 日の一般時間からお昼にかけて一時間余り懇談の時を持った。3 人の在日の韓国人学生および韓国および中国からの留学生から一人 10 分の発題

を聞き、皆で留学生の課題について懇談の時を持った。今後も継続する予定である。

e. 卒業予定者の就職状況

今年度は、大学院修士課程前期 2 年生の修了者は 21 名で、ほぼ全員が学窓をいでて教会およびキリスト教主義学校へ派遣された。

5. 社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国のイエス教長老会神学大学との交換教授プログラム

本年度前期 (2015. 5. 9~5. 14) には、イエス教長老会神学大学に小泉健准教授を派遣し、講演、礼拝など多岐にわたる日韓両教育機関の交流に寄与した。

b. 学校伝道協議会の開催

2015 年 5 月 23 日に本学を会場にして「第 16 回学校伝道協議会」が開催された。主題は「道徳教育と宗教教育」であった。出席者は 93 名、リピーターも増え、ここ数年間出席者は安定化する傾向にある。とくにキリスト教教育の神学的理念の探究面で独自の役割をもち、それを踏まえた教育の担い手の交流に寄与する会として成長が期待されてきている。

c. 日本伝道協議会全国大会および全国東京神学大学後援会活動

①2015 年 6 月 1~2 日にわたり日本伝道協議会全国大会が開催された。主題は、「現代の日本で、なぜ福音を信じ伝えるのか」で、棚村教授が講演した。第一日目は、参加者は学外と学内併せて、141 名であった。第二日目は、会場を銀座教会に移し、信徒の方々と学内関係者も合わせ全員で 142 名であった。

②本年度も、北は北海道から南は沖縄まで、全国 36 か所で東京神学大学後援会・講演会に多くの教職・信徒の方々が参加した。教会数は延べ 296 教会、参加者総数は 1,595 人であった。

d. 教職セミナーの開催

2016(平成 28)年 1 月 12 日~14 日まで、例年どおり代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開催された。主題は「福音と教会」で、本年度の神学雑誌『神学 77 号—福音と福音主義』(棚村重行教授退職記念号) と深く関連したテーマであった。大変実践的で身近なテーマであったため、多数の参加を得て充実した学びの時であった。参加者は、教職 (外部 93 名)・前期課程修了予定者・教職員をあわせ、129 名であった。

e. 東京神学大学公開夜間講座

本講座は、毎週二回 (月・金曜日 : 午後 6:00~8:00)、銀座教会で開催されてきた、69 年の歴史をもつ一般信徒のための公開講座である。三学期にわたり、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織神学、教会史や世界宗教史、キリスト教美術や音楽、実践神学などの諸学を講師から学ぶ。この他にも公開特別講演会 (2 回)、夏期と春季の研修会もある。本年度は、2 年間で修了をめざす第 68 期・69 期生計 27 名、科目毎聴講生延べ 128 名、公開特別講演会は延べ人数 30 名であった。この公開講座の内容の充実のために、さらに工夫が求められる時代だと思われる。

6. 内部質保証 (自己点検評価) および「学校法人運営調査」にかかわること

a. 東京神学大学「内部質向上委員会」の設置

2013 年 7 月に本学の「内部質向上委員会」とその組織図とが承認された。本学における FD 活動と自己点検評価活動、それに学生会の授業アンケートにもとづく自主的懇談会を統括する委員会がここに誕生した。委員は、学長、書記、自己点検委員長、教務課主任、学生課主任の五名である。2015 年 11 月 17 日に、本学と関係が深い宗教法人日本基督教団の教師委員会の委員長と委員計 2 名が、来校し『2014 年度自己点検評価書』に基づき懇談の時をもち、また後日両名の方から外部評価書を受け取った。こうした外部評価制度を次年

度 2016（平成 28）年度にも実施したいと考えている。

b. 文部科学省による「学校法人運営調査」の改善報告書提出

2012 年 11 月 22 日には、文部科学省による「学校法人運営調査」が実施された。調査結果では、二項目の指導・助言事項があり、所定の締切り（2013 年 7 月）までに改善状況を報告したが、一項目については 2014 年 7 月までに、その後の改善状況を報告することになっていた。この項目についても、2014 年 7 月に改善状況報告書を提出した。

7. 施設や設備に関する主たる事業について

a. 図書システム及び教務システムのリプレース

5 年毎の更新時期を迎えた両システムは、図書システムは 2015 年 9 月を教務システムは 8 月を目途に、アプリケーションシステムのバージョンアップ及びサーバー及び PC の更新、移行作業を実施した。作業は予定通り終了し、順調に稼動している。

b. 空調設備の更新

2015 年度は空調設備の更新が相次ぎ、実施した。特に経年劣化による更新が主たる要因であった。本館では旧会議室、朴教授研究室の 2 件、図書館棟では、実践神学研究室、アジア伝道研究室、小泉准教授研究室の 3 件であった。

c. 建物施設関係

教職員住宅の入居に伴う改修工事を 2 件行った。学生の講義中の PC 活用が増加しつつあり、本館の一部教室の PC 用コンセント工事を実施した。また、学生寮においてはインターネットを安定した環境で利用したいとの要望から、有線による LAN 配線工事を実施した。

d. 設備関係

教育研究用備品として大教室プロジェクターの導入、管理用備品として学生寮呼出スピーカの設置、印刷室用紙折り機の更新等を実施した。

8. 主たる行事

- ・ 4 月 6 日 公開夜間神学講座開講式 銀座教会
- ・ 4 月 7 日 入学式・前期始業式
式辞 芳賀 力学長
始業講演「正典（カノン）批評への招待」 中野 実教授
- ・ 4 月 7 日～ 9 日 新入・編入生オリエンテーション
- ・ 4 月 10 日 前期授業開始
- ・ 4 月 21 日 神学校全学集会
- ・ 4 月 30 日 クラス別懇談会
- ・ 5 月 12 日 全学懇談会
- ・ 5 月 19 日 前期学生総会
- ・ 5 月 23 日 第 16 回キリスト教学校伝道協議会 主題：「道德教育と宗教教育」、
教員免許状更新講習
- ・ 5 月 29 日 運動会
- ・ 6 月 1 日～ 2 日 日本伝道協議会全国大会
主題：「現代の日本で、なぜ福音を信じ伝えるのか」
- ・ 6 月 1 日 公開夜間神学講座 クラス会
- ・ 6 月 9 日 第 1 回全学祈祷会

- ・ 6月23日 博士課程後期課程研究発表会
- ・ 6月30日 夏期伝道実習オリエンテーション
- ・ 7月7日 夏期伝道実習壮行祈祷会
説教「ひとりじゃないから」枚岡教会 浅見 覚牧師
- ・ 7月19日～8月16日 夏期伝道実習期間
- ・ 8月24日～25日 公開夜間神学講座 夏期研修会 国立女性教育会館
「新約聖書における和解のメッセージ」講師：焼山満里子准教授
- ・ 9月25日 後期始業式
始業講演「旧約学における学問と祈り」大住雄一教授
- ・ 9月25日 神学生出席教会の牧師と教授会との懇談会 東京神学大学
- ・ 9月26日 第17回日本伝道を担う青年の集い
開会礼拝説教「若者よ、起きなさい」関川泰寛教授
証し「献身の喜び」片岡宝子牧師（鎌倉泉水教会）
嶋田恵悟牧師（土浦教会）
- ・ 9月29日 夏期伝道実習報告会
- ・ 10月6日 神学フォーラム1「聖書と伝統」 発題：中野 実教授、関川泰寛教授
- ・ 10月13日 神学フォーラム2「聖書と伝統」 発題：神代真砂実教授、田中 光助教
- ・ 10月20日 全学修養会 主題：「共同の教会」
基調講演Ⅰ：須田 拓常勤講師
- ・ 10月27日 全学修養会 基調講演Ⅱ：聖学院教会 東野尚志牧師
- ・ 11月10日～11日 全学修養会
主題講演Ⅰ：上尾合同教会 秋山 徹牧師
主題講演Ⅱ：芳賀 力学長
- ・ 11月14日 高校生会
- ・ 11月23日 2016年度11月入試実施日
- ・ 12月1日 一般時間「宇宙の物質史—人を造る土の塵は何処より来たれり」
講師：国際基督教大学教養学部准教授 石丸友里先生
- ・ 12月5日 オープンキャンパス
- ・ 12月7日 日本伝道協議会準備委員会 銀座教会
- ・ 12月8日 留学生懇談会
- ・ 12月11日 クリスマス礼拝
説教「さあ、ベツレヘムへ行こう！」梅ヶ丘教会 広田叔弘牧師
- ・ 12月11日 公開夜間神学講座 クリスマス会
説教者：女子聖学院中学校高等学校 木戸健一教諭
- ・ 1月12日～14日 第47回教職セミナー 主題「福音と教会」
特別講演『「おめでとう」で始まり『ありがとう』で終わる人生—福祉とキリスト教— 市川一宏先生
(ルーテル学院大学学事顧問・教授)
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・ 1月19日 第2回全学祈祷会
- ・ 1月26日 後期学生総会
- ・ 2月16日～17日 2016年度2月入試実施日
- ・ 3月7日 公開夜間神学講座 春季研修会 講師：長山 道常勤講師
「神の国とは何か—すでにいとまだ—」
- ・ 3月8日 2016年度3月入試実施日

- ・ 3月10日 卒業礼拝
説教「あなたがたがイスラエルの町を回り終わらないうちに」
久万教会 小島誠志牧師
- ・ 3月11日 卒業式・修了式
告辞 芳賀 力学長
励ましの辞：日本基督教団議長 石橋秀雄牧師
成瀬台教会 迫川道子牧師
- ・ 3月14日 公開夜間神学講座 第68期生修了式 銀座教会